

健康ウォッチング 東陽病院 副院長 伊藤 文憲

消化器病とは

横芝町の皆さん今日は。前回の広報紙で自己紹介した東陽病院内科の伊藤です。

今まで専門として消化器疾患を中心としてきましたので、しばらくはその方面についての健康情報をお知らせしたいと思います。

消化器病には大きく分けると、消化管という食道・胃・十二指腸・小腸・大腸などの食物の通り道に異常が起こる病気とお腹の中にあつて重要な働きを持つ肝臓・脾臓・膵臓とそれらをつなぐ胆嚢や胆管などの臓器の病気があります。いずれもガンなどの悪性腫瘍については症状が出る前に早期発見することが大事です。健康診断を毎年行うことが重要になります。いつも受けているが、たまたま健診を受けなかった時に限って病気が起こることがよくあります。自分に対する保険として毎年受診することをお薦めします。

悪性疾患を除くと消化管については食欲不振・腹痛・吐き気・下痢・便秘・吐下血などの自覚症状がやすいことなどから病院を受診することが多く、比較的身近な病気となっており、胃内視鏡検査（胃カメラ検査）により急性あるいは慢性胃炎・胃潰瘍と診断され、大腸内視鏡検査により大腸炎・潰瘍性大腸炎やクローン病などの診断がされて治療が受けられます。

しかし、内臓に関しては症状が乏しく、慢性化して初めて受診する場合があります。その早期の診断が大切なことになり、最近では、この方面に関しても住民検診などで肝機能検査などから異常を指摘されて病院を受診するケースが増えていきます。その場合、内臓に関しては腹部超音波検査（エコー検査）が検査による苦痛もなく、放射線の被爆などの心配もなく、しかも情報量が多く有効な検査法となります。人間ドッグと呼ばれる一日あるいは二日の健診でも、従来の胃X線検査又

は胃カメラに加えてエコー検査を行う施設が増えてきたのもそういう理由からです。

エコー検査や採血・尿検査による肝臓・膵臓・胆道（胆嚢と胆管を含む）の生化学検査を行うことにより、内臓の病気の全体像が見えてきます。精密検査として放射線を用いた腹部のCT検査、磁気を用いたMRI検査、少しつらい検査ですが内視鏡を使った胆道や膵臓の検査があり、治療法に関する重要な情報が得られます。

内臓の病気のそれぞれについては次回以降に説明しますが、多い病気としては脂肪肝・慢性肝炎・肝硬変・肝細胞ガン・急性膵炎・慢性膵炎や胆石症があります。診断確定の後には薬による内科的な治療が行われますが、悪性疾患や炎症の強いときは外科的治療が必要になる場合があります。慢性疾患の場合は慎重に経過観察と定期的なエコー検査やCT検査などが必要となります。

文芸

俳句

唐辛子我が身細めて色づけり

浅野 茂子

木の実手に石の仏の笑みやすし

池田 逸子

缶けりの子の背に釣瓶落しかな

伊藤 敬子

風の夜は花野に迷ふ夢の中

岡田 雅美

秋立つや洗ひざらしの綿のシャツ

勝又 和徳

赤日の吾が影長し野辺の秋

向後 寛

秋波を眺めてゐたる露天風呂

鈴木 繁子

新米と聞きて一札箸をとる

土屋 栗水

いま採りし間引菜の浮く朝餉かな

藤代 ゆう

白く映ゆ小さき教会秋桜

渡部 和秋

大根蒔く老婆と二人に足りるだけ

選者 鈴木 草庵

短歌

浜風を磯馴の松が守りくれ

康文先生の歌碑鎮もれり

友ひとり逝きたる後を追へるがに

秋葉 悦子

また友逝けり長く病まずに

吉岡 信子

槇扉に蜘蛛の張りたる巢のあれど
蜘蛛の住まひとそのまま置くも

石井 ユク

おだやかな秋の陽射しは九十九里の
海面きららと照り返しあつ

西山満里子

金に染む海面を徐徐にひろげつつ
今し入りゆく総の夕つ日

宇井 ちい

内視鏡に胃の検査受けある耳元に
医師はやさしく励ましくれぬ

池田 春江

畔道を飛べるとんぼの薄き羽
午後の陽射しをきらりと反す

八角 三枝

公園の芝に座りて孫と見つ
青く澄みたる冬となる空

佐瀬 初音

朝市に取りたてなめこ買ふ吾に
腕に山かけ量りくれたり

押尾 輝子

雹害に実り少なき柿の木に
来年こそはと堆肥をしきゆく

鈴木 やす

枯芝にふりくる紅葉とりどりに
彩重ねつつ秋はたけゆく

掛川 友代

前非悔い槌をふるひし禅海の
鑿あと残る青の洞門

萩原 信一

海の面をさやかに染めて天に
こよひ十三夜の月澄みあたり

選者 斎藤つね子